＜分担研究報告＞

小児の健康と養育条件に関する研究

分担研究者　岡　宏子

Ⅰ　研究の構成

「小児の健康と養育条件に関する研究」を構成する研究テーマと構成員は，初年度（平成元年）と同じく，次の通りである。

1. 被虐待児の予防・早期発見・援助に関する研究
   松井一郎　国立小児病院医療研究センター・部長
   藪内百治　大阪府立母子保健総合医療センター・所長
   稲村　博　筑波大学・助教授
2. １歳代幼児を対象とした「母と子の遊び教室」の開発に関する研究
   高野　陽　国立公衆衛生院・部長
3. 小児の養育における父親の役割に関する研究
   高橋種昭　日本女子大学・教授
4. 小児の対人関係の歪みに関する研究
   岡　宏子　聖心女子大学・名誉教授
   荒堀憲二　国立公衆衛生院・室長

Ⅱ　研究活動の展開

前年度の報告の通り，４つのグループは夫々の標題からのアプローチにより，小児の心身の健康とそれを阻み歪める養育条件との関係，又は健康と養育条件の現代的問題点との関係について，研究が進められてきたのであるが，初年度の方法の決定，調査及資料の蒐集を中心として第一段階の分析，即ち，大づかみのこれらの関係の把握と，更に方法の改善を加えての詳細な対応関係を求めるべき問題点の明確化が行われた結果をふまえて，次の詳細な分析に入った。これらの計画，及びその分析の進行状況と結果，その意味と問題点については，まず，平成２年１月26日に班会議を開いて，各テーマ毎のその進捗状況と問題点の開陳が行われ，1.については，蒐集された症例の解析から，発生起点の解明，更に進んで予防法の発見に問題が展開していること，2.では，はじめこの班内で特定テーマとして研究を発足させたが，この開発が，班の研究の結果から求められる。健康に歪みをもたらす養育条件への援助，予防とつながるのではの予測のあること。3.では，現代の家庭の養育条件の変容の一つである父親のあり方を追究することで，小児の健康的発達への歪みの予防の現代的問題の解明の一方向となることを，４では，かゝわりの行動に歪みありと思われる幼児を対象に，その行動特性の把握と型の分析が，親子関係及養育環境と特徴ある関連が見出されるのではないかと思われることから，詳細な特性の把握の仕方や型の分類に改良を加えて解析をすゝめる必要性と，更にそこから，養育条件の問題点への相談や保育を通しての援助の方途を見出す方向への展開が示され，相互の間で，条件分析への示唆がなされると同時に，「遊びの教室」の開発を，班内の研究結果をふまえて，養育条件の改善への援助や治療，又は予防の方向にもっていけるような方向づけをしては如何？との意見が多く出された。

この第１回の班会議をふまえて，各グループは夫々に，あるグループは解析の条件を加え，分類の仕方に新しい条件をつけ加え，又その目的にも新たな条件を加えて，その研究をそれぞれ展開することになった。

Ⅲ　本年度研究の成果

それぞれの研究の具体的な結果と，本年度到達した結論とは，各研究の報告にある通りであ

聖心女子大学

るが，こゝでは，3月9日午前午後を通して行われた班内報告会での報告と討議の内容から，この小児の健康と養育条件との関係について，夫々，ことなる角度からのアプローチを行って一応得た結果の相互の交換による理解と認識が，各テーマの研究の次の展開や結論をひき出す道程に考慮を必要とする事から，更には，その各各の結果をこのテーマのもつ大きな問題のなかにどのように位置づけるか，ということについて，大きな示唆を得，共通問題としての認識を同じくし，健康と養育条件の関連をある方向から見出すことに止まらず，その推進だけでなく，問題発生の予防の方途を明らかにし，又治療や改善の援助を行うことについても，共同出来ることを確認するに到ったことを，要約して述べておきたい。

1. 養育条件と心身の小児の健康との間の相互の関係を解析していくと，養育条件として何かの単独な条件がぬき出されていくと同時に，小児の例にある条件との間に循環が生じて，それが，小児に与える養育条件となること。

たとえば，松井らの，被虐待児の養育条件でも，たゞ環境条件として存在する未熟又は双生児といった条件だけでなく，子側に，親の態度をひき出す条件（たとえば，愛らしさに欠ける）があり，それが放置を引きおこし，子の発達にまた作用するなど。

又岡の研究で，かゝわりの歪みをもたらす養育条件は，ぬき出し易い環境条件であるのでなく，親の意識や価値観，生活の幸福感等の複合が，子側の条件とからみあって，放置，拒否，介入，非受容等をひき起こし，それが子に作用すること等。

これらから，指導援助の問題は，どこで危険性を発見し，どこで循環を断ちきることが出来るか，の共通問題となった。

2. 又藪内らは，親の指導のむつかしさを強調し，それが，松井，岡の指摘と一緒になって，一つには，予防援助，もう一つは治療—早期に見出して，条件を動かすこと—存在する条件というより，複合循環して問題を起こすような作用として子に働きかけることを変化させる方途を，もう少しはっきりと打ち出せるまで，解析をすゝめることが討議された。

3. こゝに高野の遊びの教室開設の問題と関連し，遊びの教室は単に親と子の遊びを指導するのでなく—それだと，いろいろな問題もあろう—子の健康に歪みを与える，これら班内の問題の指摘をふまえて，一つには，親と子のよき循環をつくり，健康な発達に導く予防的役割，他方は，これらの問題発生の循環に介入していけるようなセンターという性質を帯びさせることなどが討議，要望された。

4. これらのなかに，稲村の登校拒否の問題及荒堀の親子関係の性的な歪みという，少し特殊な問題にも，同じような援助の困難さがあることが認識された。

以上の班内討議を経て，3月9日には，全体会議に，夫々要約点が発表された。

Ⅳ　次年度への期待と見通し

特に，班内会議の中心討議の要約に述べたように，この班の本年度の研究の成果は，より大きな視点に立ってのこれらの問題の解明と，予防，指導援助，治療の線にまでつながることが，夫々の成果を共通の場で，時間をかけて討議することによって，明らかになってきたことであり，次年度の継続により，これが明確となって，たゞ予防の方途の示唆に止らず，施策にもつながり得る見通しと，具体的な試策が得られるのではないかと期待がもてる。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

II　研究活動の展開

前年度の報告の通り,4 つのグループは夫々の標題からのアプローチにより,小児の心身の健康とそれを阻み歪める養育条件との関係,又は健康と養育条件の現代的問題点との関係について,研究が進められてきたのであるが,初年度の方法の決定,調査及資料の蒐集を中心として第一段階の分析,即ち,大づかみのこれらの関係の把握と,更に方法の改善を加えての詳細な対応関係を求めるべき問題点の明確化が行われた結果をふまえて,次の詳細な分析に入った。これらの計画,及びその分析の進行状況と結果,その意味と問題点については,まず,平成 2 年 1 月 26 日に班会議を開いて,各テーマ毎のその進捗状況と問題点の開陳が行われ,1.については,蒐集された症例の解析から,発生起点の解明,更に進んで予防法の発見に問題が展開していること,2.では,はじめこの班内で特定テーマとして研究を発足させたが,この開発が,班の研究の結果から求められる。健康に歪みをもたらす養育条件への援助,予防とつながるのではの予測のあること。3.では,現代の家庭の養育条件の変容の一つである父親のあり方を追究することで,小児の健康的発達への歪みの予防の現代的問題の解明の一方向となることを,4 では,かゝわりの行動に歪みありと思われる幼児を対象に,その行動特性の把握と型の分析が親子関係及養育環境と特徴ある関連が見出されるのではないかと思われることから,詳細な特性の把握の仕方や型の分類に改良を加えて解析をすゝめる必要性と,更にそこから,養育条件の問題点への相談や保育を通しての援助の方途を見出す方向への展開が示され,相互の間で,条件分析への示唆がなされると同時に,「遊びの教室」の開発を,班内の研究結果をふまえて,養育条件の改善への援助や治療,又は予防の方向にもっていけるような方向づけをしては如何?との意見が多く出された。